原稿は校正時に加筆を要しない完全原稿とする。

原稿枚数は本文・注・図版等をあわせて、四〇〇〇字詰原稿用紙五〇枚相当以内とする。なお小論文の原稿枚数は一〇一五枚程度とする。注は、原稿用紙により「マスに半字を」とした。

原稿を必要とする場合、占有面積をベースで四〇〇字詰原稿用紙二・五枚の割合で換算する。図版原稿は、そのまま版橋用紙を用いることとする。下記の条件で使用できるものを用いる。また、四〇〇〇字詰原稿用紙に換算した枚数を示すこと。

漢文に返点・送り仮名を付けることは原則として認められない。ただし、日本漢文・日本漢字等に関する内容のもので、訓点の施し自体を論ずる場合はこの限りではない。注は、各章・各節ごとに付けず、通し番号を施して全注の末尾に掲げる。制注を用いることは認められない。

表記は、原則として常用漢字・現代仮名遣いとする。ただし、旧漢字・旧仮名遣いを用いる場合は、執筆者の責任に於いて原稿末尾に、改行して記入すること。

一提裁・表記等

漢文に返点・送り仮名を付けること、原則として認められない。ただし、日本漢文・日本漢字等に関する内容のもので、訓点の施し自体を論ずる場合はこの限りではない。注は、各章・各節ごとに付けず、通し番号を施して全注の末尾に掲げる。制注を用いることは認められない。

表記は、原則として常用漢字・現代仮名遣いとする。ただし、旧漢字・旧仮名遣いを用いる場合は、執筆者の責任に於いて原稿末尾に、改行して記入すること。また、四〇〇〇字詰程度の要旨を添付する等の詳細は、提裁及び表記要項に従う。

四校正

校正者（校正者は、校正に当たる場合、その結果加算される印刷費についてはのみ認める。再校時のみ加筆・訂正は、原則としてこ

中校正は、執筆者の責任で、校正が期限を越えて遅延し、発刊に支障をきたすことが予想される場合、編集委員会の責任に於いて、

校正時を加筆・訂正された場合、その結果加算される印刷費についてはのみ認める。再校時の加筆・訂正は、原則としてこ

中校正は、執筆者の責任で、校正が期限を越えて遅延し、発刊に支障をきたすことが予想される場合、編集委員会の責任に於いて、